



いわて・みやぎ・ふくしま 便り

No. 7

2019 年
11月1日発行

日本生協連
組合員活動部

10月の「いわて・みやぎ・ふくしま便り」をお送りします。

東日本大震災から8年半が経ちました。これからも復興に向けて歩いていく被災地の皆さまに寄り添って、全国から支援活動を行っていきましょう。

また、全国で災害が発生し、各地で支援の輪が広がっています。

被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。



生協ひろしまお好み焼き隊がお振舞い



生協ひろしま「お好み焼き隊」のみなさんが、東日本大震災の支援として「お好み焼き」のお振舞いを行ってくださいました。10月8日は大槌町の災害公営住宅「県営屋敷前アパート」、翌9日は、大船渡市の災害公営住宅「県営みどり町アパート」で実施し、いわて生協のこ〜ぷ委員もお手伝いに加わりました。

「お好み焼き隊」のみなさんは、この日のために、広島のおタフクソースさんで徹底した修行を積んできたとのこと。住民の方も手際のいい調理に見入り、「はじめて本場、広島のお好み焼きを食べた。焼きそばも入っていてとてもおいしい」とにこにこしておぼっていました。

生協ひろしま「お好み焼き隊」は2012年から、支援を継続してくださっており今回で6回目。当初は仮設住宅でのお振舞いが中心でしたが、現在は災害公営住宅での活動となっています。仮設住宅と違って災害公営住宅は、コミュニティづくりが課題のところも多く、このような誰もが参加できるイベントは住民のコミュニティの場としても役立っています。久しぶりに顔を合わせる人もいて、おしゃべりと笑顔が広がりました。



手際の良さにみなさん見とれていました



集会室にてみんなで「いただきます」



台風19号の支援活動について



10月12日～13日にかけて、岩手県も含む東日本各地に台風19号が襲いました。早速、ご心配のメッセージやお見舞いを頂戴し、感謝申し上げます。

岩手県内でも、沿岸部を中心に25市町村で3千ヶ所近い住宅被害となっています。中には、東日本大震災でようやく再建したお宅が再度浸水するなどの被害も出ています。また、東日本大震災で大きな被害を受けた「真崎わかめ」の田老町漁協本所の1階も浸水被害があり、鮭の養殖施設も土砂流入の被害を受けました。

店舗、共同購入では募金活動を開始したほか、いわて生協コープボランティアセンターでは、ボランティアバスの運行も始めました。岩手県内8市町村で災害ボランティアセンターが開設されていますが、参加が少ないボランティアセンターもあり、被災地のニーズをとらえながら、活動を続けます。



被災地訪問に取り組んでいます



みやぎ生協では、復興の進捗状況や当時の様子を自身の目で確かめ、支援や防災につなげるため、沿岸部などを訪問する企画を継続して行っています。

10月8日、仙台市太白区周辺地域のエリアで、3月に実施した「3.11を忘れない取り組み」で講話いただいた、元ラジオ福島アナウンサー（現在はフリーアナウンサー）の大和田新さんの案内で、福島県を訪問しました。

南相馬市の「絆診療所」で院長から当時のお話を伺ったほか、沿岸部を中心に視察しました。参加者からは「人と人とのつながりが、震災の辛い体験を乗り越えていく力になり、生きがいにもなっていると感じた」「フレコンバックが続く光景に、これからの日本の課題を垣間見た」「実際に現地の方のお話を聞くのが一番だと実感し、次の世代につながるものにしたいと心から思った」などの声が寄せられました。



福島第一原発事故当時の過酷な状況や、人とつながることの大切さを教えられました。



津波で亡くされたお子さんの笑顔を忘れないよう、多くの笑顔につながる取り組みをされていることを伺いました。



手作り団体のスキルアップ学習会を実施しました



8月29日に手作り団体の方々の販売力アップにつなげられるよう、手作り団体スキルアップ学習会を開催しました。とうほくてしごとカタログFUCCO掲載の5団体のほか、特定非営利活動法人応援のしっぽ、みやぎ生協の理事・職員が参加。ディスプレイの専門家の方から、商品陳列手法の基本や色の効果的な活用方法などを学び、実際に自分たちの商品を展示してみてアドバイスを受けながら展示の工夫を学びました。

色使いでイメージが大きく変わることや、客層や販売場所を意識して商品構成を考えること、展示テーマを決めることの重要性などを学ぶことができました。それぞれの団体からは「今後の販売に生かしたい」との声が寄せられるなど、販売力アップへのきっかけとすることができました。

1か月後の9月末には、仙台駅前の商業施設兼オフィスビル「Aエル」での販売会で、早速学んだことを生かした売り場を作ることができ、実践につながっていました。また、オプション企画として参加を声かけた、震災遺構・仙台市荒浜小学校視察にも約半数が参加し、子どもたちに当時の様子を伝えることができました。



自分たちの商品を、ふだん使っている什器で展示し、アドバイスいただいたことで具体的に学ぶことができました。



学習会で学んだことが、AER販売会での展示に生かされていました。



台風19号被害への取り組みを行っています



10月12日～13日にかけて発生した台風19号は、宮城県内にも大きな被害をもたらしました。みやぎ生協では、「めぐみ野」（産直）産地である角田市・丸森町の被害の甚大さを受け、被災者支援活動を開始しています。

- ① 10月21日から「台風19号 宮城・福島被害 被災者・めぐみ野（産直）生産者緊急支援募金」の取り組みを開始しました。
- ② 「めぐみ野」（産直）生産者の復興支援を目的にしたお見舞いと、両市町の災害ボランティアセンターの運営支援として「みやぎ生協震災復興・災害支援金等積立金」から計200万円を拠出しました。
- ③ 「めぐみ野」（産直）生産者の復興支援活動にあたる職員を募集し、10月23日から週2回定期的に、生産者の自宅・作業場・農場の復旧作業支援を開始しました。

- ④ 宮城県災害ボランティアセンター支援連絡会議に参加しつつ、丸森町災害ボランティアセンターに10月26日から職員を派遣しています。



「めぐみ野（産直）」米生産者の納屋からの運び出し作業



「めぐみ野（産直）」野菜生産者の自宅周辺の様子



福島復興のシンボルとして「夜の森のさくら」を植樹



10月15日（火）に富山県生活協同組合連合会が主催して、富山県下新川郡朝日町役場敷地内の芝生公園に「夜の森のさくら」を植樹しました。この桜は、富岡町夜ノ森地区の桜並木の直系子孫となるソメイヨシノの苗木です。

この植樹は「夜の森さくらプロジェクト」として、震災・原発被害を風化させないよう、また福島復興のシンボルとなるよう、富岡町が全国に呼び掛けているものです。コープふくしまでは、そのお手伝いをしています。

この日の植樹式には、コープふくしまより穴戸義弘福島県副本部長と日野公代組合員理事が同席しました。富山県生活協同組合連合会では、2011年より「福島子ども保養プロジェクト」を朝日町と連携して取り組んでおり、今年で11回目の受け入れ地になっています。「夜の森のさくら」の植樹により、福島と朝日町、富山県内生協の絆がより強まることが期待されます。



朝日町、富山県生協連、富山県生協、CO・OP とやま、コープふくしまの皆さん



植樹する様子



こども保養プロジェクト (コヨット!) 活動報告 ～山形県 天童温泉 湯坊いちらく～



開催日 2019/9/28 (土) ～29 (日)

保養先 山形県 天童温泉 湯坊いちらく

参加者 6家族 (大人 11 名 / 子ども 8 名) 内スタッフ 2 名



1日目

・加茂水族館、オランダせんべいファクトリー

6家族中、3家族が白河、1家族が本宮、2家族が郡山からの参加でした。早朝からの企画であるため、移動中の車内はとても静かでした。今回は出発地が郡山限定のため、予定よりも 10 分早めに出発することができました。東北中央道から酒田方面に向かい、途中に米沢や酒田でトイレ休憩を挟みながら目的地の加茂水族館まで行きました。

今回、既にインフルエンザや風邪が流行っているらしく、3件のキャンセルがありました。参加人数が少ない中で、皆さんが時間をしっかりと守ってくださり、30 分早くホテルに到着することができました。

2日目

・お買物キッチン「焼きそばづくり」

共立社しろにしセンターにて、2グループに分かれてお買物キッチンを行いました。グループ分けの後、班長・会計担当・双眼鏡担当・かご係を決めて、今回のテーマでもある「焼きそば」に入れる具材を書き出してから、買い物がスタートしました。

グループによっては、コープ商品で安く収めようとしていたり、お肉にこだわってブランド肉を購入したりと、少人数ながらも楽しく買い物をしていました。もちろん、デザートも忘れずにみかんやプリンなどを購入していました。

お買い物終了後は、野菜を切る人、炒める人、お皿を準備する人と役割分担をして作業に移りました。子ども達の手際の良さに、お父さんやお母さん達は驚いていました。手を切る子もなく、無事に焼きそばが完成しました。

子どもたちにとっては、1チーム9食を作るのは大変だったようですが、完成品を前にやれば出来るんだと親たちにアピールしていました。



焼きそばの材料を考える子どもたち



調理の様子



完成したやきそば



こども保養プロジェクト (コヨット!) 活動報告 ～栃木県 ホテルサンバレー那須～



開催日 2019/9/28 (土) ～29 (日)

保養先 ホテルサンバレー那須

参加者 6 家族 (大人 12 名 / 子ども 8 名) 内スタッフ 3 名



1 日目

・ホテルサンバレー那須

6 家族中、2 家族が福島、3 家族がいわき、1 家族が郡山からの参加でした。夕食がビュッフェ形式であるため、バスの中で自己紹介をしてもらいました。その中で楽しみにしていることは、トリックアートや陶芸の他、「食事」という子が二人ほどいました。

陶芸教室では、お皿の絵付けを体験しました。陶芸家の溝口先生による説明の後、手回しろくろにお皿をのせて、制作に入りました。あらかじめ考えてきた絵を描く子や、図柄のイラスト集を参考に細かな模様を描く子など、各自思い思いの絵付けをしていきました。完成したお皿は、後日自宅まで送られます。

自由時間には、プールを楽しんだ親子もいました。夕方のため、少し寒かったようですが、施設内に温泉があったため、良かったようです。

「森のテーブル」でビュッフェ形式の夕食をとりました。個室ではありませんでしたが、交流できるようにテーブルをまとめていただきました。メニューは種類が多く、地元の食材もあり、皆さんに好評でした。また、アレルギー表示がされており、小さい頃アレルギーのあった子のお母さんが感心していました。



トリックアートを楽しむ様子

2 日目

・とりっくあーとびあ、アジアンオールドバザール

交通渋滞のため、少し遅れてとりっくあーとびあ「迷宮?館」に到着しました。1 時間の見学時間をめいいっぱい使って、なんとも不思議なアートに驚きつつ、皆さん楽しんでいました。

アジアンオールドバザールでは、お買い物を楽しみました。子どもたちにとっては、あまり買うものがないようで、外で遊び回っていました。親子それぞれ楽しみました。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

百瀬

